

令和3年度(令和2年度実施事業分)事務事業評価評価票

No. 15-001

PDCA	事務事業名	地域福祉推進事業	部課等名	福祉部 地域福祉課 地域福祉担当	担当	内藤誠		
					内線等	348		
P 総合計画との関係性等	政策体系	章： 第2章 子育てと暮らしを地域で支え合うまち						
		節： 第2節 地域福祉の推進						
		基本施策： 1. 地域福祉						
		単位施策： (1) 地域での福祉支援体制の整備						
		個別施策： ①地域課題の共有と発掘						
根拠法令等	社会福祉法							
対象・目的	半田市地域福祉計画に基づき、地域住民、社会福祉協議会、関係機関等と連携・協力し、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けることのできるささえあいのまちづくりを推進する。							
目的を達成するための手段・活動内容	地域の福祉課題について協議等する「ふくし井戸端会議」、住民交流拠点である「地域ふれあい施設」や「地域サロン」、住民同士の助け合い組織である「お助け隊」など、地域の福祉基盤の運営継続・発展を支援する。							
D 前年度の活動結果と見られた成果	活動結果	活動実績		H30年度	R1年度	R2年度	単位	
		①ふくし井戸端会議開催単位数		12	13	13	か所	
		②にじいろサポーター養成講座開催数		2	3	—	回	
		③						
		事業費		169	1,097	140	千円	
		人件費		7,183	9,626	5,863	千円	
		総事業費		7,352	10,723	6,003	千円	
		活動単位当たりのコスト		H30年度	R1年度	R2年度	単位	
		①地域福祉活動地区単位あたりのコスト		612	824	461	千円	
	②							
	③							
	成 果	成果指標		H30年度	R1年度	R2年度	単位	
		①ふくし井戸端会議参加者数	実績値	951	565	352	人	
			目標値	800	900	600		
		②にじいろサポーター受講者数	実績値	38	116	—	人	
目標値			30	40	40			
		実績値						
		目標値						
C 課題の整理	観点別評価	必要性		有効性		効率性		
		①市の関与の妥当性	妥当	④上位施策への貢献	大きい	⑦コスト削減余地	ない	
		②市民ニーズ	高い	⑤成果向上の余地	ある	※対象・手段の変更		
		③休廃止の影響	大きい	⑥類似事業の有無	ない	⑧受益者負担適正化余地	—	
	事業の評価・課題	C						
		ふくし井戸端会議については、新型コロナウイルス感染予防の観点から、主に少人数で開催されるサロン等へ出向いてコロナ禍における活動状況等について聞き取り等を行った。にじいろサポーター養成講座についても、従来の講座形式による開催に代えて講義動画を作成し、市ホームページへ掲載するとともに地域サロン等の運営スタッフへ周知した。また、関係機関との協議調整やパブリックコメントを行い、第2次半田市地域福祉計画を令和3年3月に完成させることができた。						
A 課題解決のための目標	今後の事業の方向性	改善推進						
		第2次半田市地域福祉計画に基づき、関係機関と連携・協力して、地域の福祉活動基盤の運営継続・発展支援や、複雑・多様な課題等を抱える方の相談支援充実、福祉活動従事者の確保・育成などに取り組んでいく。						
	令和3年度の目標					目標値	単位	
		①アウトリーチ継続的支援件数				75	人	